

目指す学校像	希望と思いをはぐくむ、寄り添いを大切にする美と活力の学校 ～デジタル化された教育環境を活用し「学びの個別最適」「学びの自律」「学びの探究化」を推進する学校～
--------	---

重点目標	1 全ての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」の実現 2 豊かな人間性と健やかな体の育成と教育環境の整備 3 学校・家庭・地域社会と連携・協働する「地域とともにある学校づくり」の推進 4 教職員の資質能力の向上と育成、教職員組織の活性化
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価		
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日 令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等		
1	○全国学力・学習状況調査の平均正答率は、全国の平均とほぼ同じとなり、伸びてきている。 ○全国学力・学習状況調査の生徒質問紙の結果では、「教科の勉強は好きですか」の質問に対して、数学は、全国平均とほぼ同じであったが、国語と理科の肯定的な回答は、県や全国の平均を大きく上回っている。 ○全国学力・学習状況調査の平均無回答率は、市や全国と比べ、大変低く、「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した生徒が、約9割となった。 ○授業態度も落ち着いており、与えられた課題に対して真面目によく取り組んでいる。 <課題> ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、国語は、「言語の特徴や使い方に関する事項」についての知識及び技能に課題がある。数学については、「数と式」が課題となった。理科はA区分のエネルギー、B区分の地球が課題となった。 ○教科の学習は好きな生徒が多いが、「主体的に学ぶ」生徒の育成が課題となる。また、「学校以外での学習時間」は、1時間以上と回答する生徒の割合が、県や全国に比べ、10%以上少ない。家庭学習の取組も課題となる。	・デジタル化された教育環境を活用 ・主体的に学ぶ生徒の育成 ・全ての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」の実現	①全教諭が「学びのポイント」を踏まえた授業を実施し、相互に参観することで、学習の質的向上を図る。 ②テスト前学習「チャンスタイム」の充実を図る。 ③定期テスト後の学習に関するアンケートに全国・市学習状況調査の項目を取り入れ、学習の質的向上について協議確認し、主体的な学びにつなげる取り組みを実行していく。 ④定期テストに向けた、個別の学習計画を生徒の状況や意見を取り入れながら、改良を図っていく。 ⑤全国及び市の学習状況調査の最新の結果を基に、課題とする内容について分析するとともに、市教委による学力向上カウンセリング学校法訪問を活用し、効果的な家庭学習を定着させる。	・定期テスト後の学習アンケートで、「チャンスタイム」の取組、「学習した内容について、わかった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげていることができているか」について、1学期中間を基準として、肯定的回答が、回を重ねること向上したか。 ・校内研究推進委員会において、個別の学習計画の改善できたか。 ・調査結果の分析結果や学力向上カウンセリング学校訪問を踏まえ、授業改善の視点、手立てを教科ごとに設定することができたか。また、家庭学習に対する学びの向上を図ることができたか。						
2	<現状> ○全国学力・学習状況調査において、肯定的な回答が、全国、県平均を上回った質問項目は、 ◎自分には、よいところがあると思いますか。 ◎先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。 ◎困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。 ◎人の役に立つ人間になりたいと思いますか。となり、自己肯定感や相談できる大人がいると感じている生徒の割合が高い。 <課題> ○全国学力・学習状況調査において、肯定的な回答が、全国、県平均をやや下回った質問項目 ●将来の夢や希望をもっていますか。の項目に対して、継続的なキャリア教育や進路指導等の充実を図っていく。	・生徒一人ひとりへの寄り添った支援や教育相談体制の充実 ・自己肯定感や自己有用感を高め、継続的なキャリア教育や進路指導への取組	①情報端末を活用した生徒向けアンケートを活用し、生徒一人ひとりの状況を継続的に把握し、学校全体で支援の充実を図る。 ①「人間関係プログラム」で学んだことを日常の場面で意図的に取り入れ、学級で発言しやすい環境をつくることともに、クラスの一員としての役割を与え、活躍の場を設定する。 ②「『命の支え合い』を学ぶ授業」を通して、相談しやすい環境をつくる。	・学校評価生徒アンケート「授業が楽しい」の肯定的な回答85% ・学校評価保護者アンケート「生徒一人ひとりを大切に授業」の肯定的な回答70% ・テスト前の個別の学習計画が「計画通り進められた」の肯定的な回答70%						
3	<現状> ○昨年度、本校学校運営協議会において「城南中学校区魅力化プラン」について熟議を重ねた。それぞれの立場からできる魅力化を考えることができた。 <課題> ○今年度は、魅力化プランを具体的に取り組み、実行する。	・目指す生徒像を地域全体で共有するためのICT活用 ・教育活動の公開	本校HP内の学校運営協議会ページを充実させる。 教育活動の公開を積極的に行い、家庭や地域に開かれた学校づくりを行い、関心を高める。	・学校評価保護者アンケート「コミュニティ・スクールに係る項目」の肯定的な回答60% ・学校運営協議会委員のアンケートで、「地域の方が「学校や中学生に対する関心が高まった。」の肯定的な回答80% ・学校評価保護者アンケート「学校は、開かれた学校づくりを行っている」の肯定的な回答80%						
4	<現状> ○情報端末をはじめとしたICTの活用方法について、担当教諭等の努力で教職員の指導力向上を図ることができている <課題> ○授業改革に組織として取り組む。 ○教職員の育成と学校経営・運営への参画意識を高める。	・教職員の資質能力の向上と育成、教職員組織の活性化	①教員相互の授業公開を通して、教師がICTの効果的な活用と授業改革に取り組む。 ②OJTや学年や教科を超えたメンター制を取り入れる。	①全ての教員が「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、ICTの活用が日常的な状況になったか。 ②教職員学校評価「職員同士の連携」の肯定的な回答3.7(4点満点)						

